

にぎわい 87号

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

1. 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク平成17年度総会のご報告
鳥取市都市整備部都市政策課
2. 第11回環日本海拠点都市会議を開催いたしました。
境港市産業環境部通商課
3. 17年の境港への客船入港「飛鳥」で締めくくり
境港管理組合総務課

★ 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク平成17年度総会のご報告

鳥取市都市整備部都市政策課

港湾を核として、地域間の交流による発展をめざす「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の平成17年度総会並びに講演会が、8月18日に鳥取県鳥取市の鳥取県民文化会館で開催されました。

今年は、本ネットワーク代表（新潟市長）が所要のため欠席となったため、副代表である境港市長がその職務を代行されました。

さて、総会ではまず、本ネットワーク副代表の中村勝治 境港市長の開催挨拶、開催市である竹内功 鳥取市長の歓迎挨拶、藤田武彦 中国地方整備局副局長の来賓挨拶がありました。

続いて総会議事に入り、平成16年度の活動及び決算の報告がなされ、また、平成17年度の事業計画並びに予算案が提案され、全会一致で承認・決定されました。

事業計画の中で、「にぎわい探検隊」の活動として、日本海側の観光資源・魅力のPR・情報発信の場として、ホームページ上にコーナーを新設することなどが提案されました。

また、来年度の総会開催地について、佐賀県唐津市より立候補があり、審議の結果、同市で開催されることが承認・決定されました。

総会后、講演会が行われ鳥取大学工学部教授の奥山育英氏により「みなとまちのにぎわいと環日本海の交易」と題して、

まず、山陰で第1号の「みなとオアシス」として登録された「鳥取・賀露みなとオアシス」へ



総会 歓迎挨拶 竹内鳥取市長

の登録前からの関わりやその中にある、鳥取港海鮮市場「かろいち」、「かにっこ館」について、利用状況や現在に至るまでの経緯等、また「みなとオアシス」含めての説明全国のみなとまちづくりの取り組みについて説明がなされました。

一方、韓国、ロシア、香港、中国、北朝鮮など環日本海諸国と日本との貿易について、貨物ごとに、日本全国に対する日本海側のシェアの実態についてシベリアに述べられるなど大変貴重な講演でした。なお、講演会には会員及び一般参加者を合わせ約 150 人が参加しました。

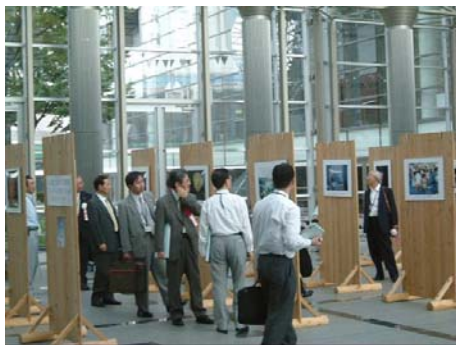


講演会 講演の様子 奥山教授

また、にぎわい会員より提供された全国のみなと祭の写真パネルを会場内に展示し、たくさんの方々にごらんいただきました。

講演会の後に懇親会を行い、懇親会の中では因幡の傘踊りも披露されました。懇親会を通じてより一層の会員相互の親睦を図ることができました。

翌日は、現地見学会を開催し、鳥取港をはじめ、講演会で説明のあった「鳥取・賀露みなとオアシス」、また鳥取砂丘などを見学して全ての日程を終了しました。



パネル展示の様子



交流会 因幡の傘踊り披露



現地見学会 鳥取砂丘



現地見学会 海鮮市場「かろいち」



現地見学会 かにっこ館

☆ 第 11 回環日本海拠点都市会議を開催いたしました

境港市産業環境部通商課

境港市では平成 17 年 8 月 31 日～9 月 1 日に、国土交通省中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所ほかの御後援をいただき、第 11 回環日本海拠点都市会議を開催しました。

第 11 回会議の参加都市は、中国からは図們江開発が進められている吉林省琿春市・図們市・延吉市。韓国からは琿春～ザルビノ～東草の定期航路が開設されている江原道東草市と 2 つの港湾を擁する東海市。そして日本からは鳥取県米子市と境港市参加しての計 7 都市です。

境港市は港湾・空港といったインフラを生かした環日本海時代の西の交流拠点を目指して、環日本海交流の推進に取り組んでいます。1994 年より環日本海の諸都市が一堂に会し、環日本海経済圏の一体的な発展方策を話し合う場として、環日本海拠点都市会議に参加しています。

境港市としては第 7 回に続いての 2 回目の主催であり、今回は「行政と企業の協働による環日本海地域の経済交流の発展について」をテーマに、貿易や合弁会社設立など環日本海諸国との経済交流に取り組まれている民間の方々によるパネルディスカッションを実施。そこで出た意見も参考にしながら各都市代表による意見交換を行いました。



会議の結果、経済、観光、文化など各分野で交流を促進して、環日本海地域の発展に取り組むこととし、合意事項を備忘録として集約し会議最後に参加都市代表による署名が行われました。



なお、来年は韓国東海市で第12回の会議を開催することにいたしました。

本会議会場となった境港市竹内団地にある「夢みなとタワー」では、会議に協賛し8月27日～8月31日の期間「環日本海交流まつり」も行われ、物産展示販売や参加都市の児童絵画展、中国人研修生の指導で水餃子作りが体験できる「お国自慢料理教室」などのイベントに多くの市民が参加しました。



17年の境港への客船入港「飛鳥」で締めくくり

境港管理組合 総務課

去る10月11日(火)に、博多港からの「佐渡・屋久島クルーズ」の途中に、客船「飛鳥」が境港に寄港しました。到着後、約420名の乗客の方々が、出雲大社や、松江・美保関・水木しげるロードなどへの観光に出かけられ、また、地元の約40名の方々が境港から乗船し、クルーズに参加されました。

予定どおり15時に出港した「飛鳥」ですが、来年には外国船籍の客船「アマデア」として生まれ変わるだけに、もう見ることの出来ない「飛鳥」を関係者一同複雑な心境で見送りました。(「飛鳥」には、境港へ最終的に9回寄港していただきました。)

というわけで、今年の境港へのクルーズ客船の入港は、「クリッパーオデッセイ(4~6月)」から始まり、「オイローパ(4月)」、そして今回の「飛鳥」と予定されていた7回が終了しました。来年も何回か客船の寄港が予定されていますが、境港を山陰の玄関口として、引き続き、たくさんの観光客の方々にご利用頂きたいと思います。



まだ辺りは薄暗いため“ASUKA”が光る！



どっかで見たような後ろ姿、



国内ツアー終了後、乗船する方々



見送りに やはりこの2人は欠かせません。



本当にこれが「飛鳥」最後の後ろ姿になります。少し寂しいですね

にぎわい通信 87 号をお届けします。

中国地方整備局藤田副局長の総会時の挨拶にもありましたように、日本海沿岸は「BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）」と呼ばれる目覚ましい経済発展をしている地域と向き合っているという地理的優位性があり、今後の発展が大いに期待されています。

今後は産業だけでなく、観光も含めた交流が活発になると思われます。日本海沿岸の交流が活発になることによって、当のネットワークの活動範囲がより大きくなってほしいと思います。

【編集・問い合わせ先】

中国地方整備局 港湾空港部 港湾計画課

TEL : 082-511-3905